

国際ペン東京大会2010
招待作家
国際ペン大会開会式と文学フォーラム

- 国際ペン大会開会式

9月26日大隈講堂

- 基調講演に代えて

- 群読劇 「水の手紙」 (井上ひさし作)

- 基調講演

- 高行健
- マーガレット・アトウッド

高行健

Gao Xingjian

- 1940年、江西省に生まれる。62年に北京外国語学院フランス語科を卒業し、中国国際書店に勤務。文化大革命中は安徽省の山村に下放した。75年に北京に戻り、『中国建設』雑誌社のフランス語部門主任となる。77年、中国作家協会対外連絡委員会に転属。西洋モダニズム文学の紹介と小説創作を開始した。81年、北京人民芸術劇院専属の劇作家となる。『非常信号』（82）、『バス停』（83）、『野人』（85）などの作品で実験的演劇の端緒を開くが、中国での賛否は分かれた。87年に水墨画家として招聘されてドイツに渡り、翌年からパリに移る。「天安門事件」を背景とした劇作『逃亡』（90）、および長江流域を旅する男の見聞と思索を綴った長篇小説『靈山』（90）を発表。渡仏後の劇作に『生死界』（91）、『週末四重奏』（96）など。97年にフランス国籍を取得。長篇第二作『ある男の聖書』（99）は自伝的小説で、中国で暮らした過去と海外を流浪する現在を重ね合わせて描く。これらの仕事が評価され、中国語で創作する作家として初めて2000年にノーベル文学賞を受賞した。



マーガレット・アトウッド

Margaret Atwood

- カナダの小説家、詩人、児童書作家、劇作家、批評家。トロント大学、ハーバード大学大学院で英文学を学んだ後、ブリティッシュ・コロンビア大学等で教鞭をとる。学生時代ノースロップ・フライの影響を受け、神話と原型への回帰はその後の創作に影響を及ぼしている。詩集『サークル・ゲーム』（1966）でカナダ総督文学賞を受賞。69年には鋭い社会風刺を含んだ最初の小説『食べられる女』を出版。以後、繊細な言語感覚と鋭い問題意識で多くの長編小説、短篇集、児童書、評論、詩集等を発表している。「1970年代後半から始まったカナダ文学の開花はアトウッドによってもたらされた」とも言われている。小説作法は多様で、膨大な古典の知識をもとに、選びぬかれた言葉と多重構造の魅力なストーリーテリングで読者を惹きつける。ブッカー賞をはじめ、多くの文学賞を受賞。
- アトウッドの活動は創作だけではない。カナダ作家組合会長、カナダペン会長を歴任。人権問題、環境問題についても活発に政治的提言、講演を行っている。（佐藤アヤ子記）



(George Whiteside)

マーガレット・アトウッドのその他のプログラム

9月29日(カナダ大使館) 阿刀田高日本ペンクラブ会長との対談 朗読劇「洪水の年」(本人出演)

朗読劇「洪水の水」

マーガレット・アトウッド作 小説*The Year of the Flood* (『洪水の年』) のためのDramatic Reading

この作品は、2009年9月出版のマーガレット・アトウッドの小説*The Year of the Flood* (『洪水の年』) のプロモーションのためのドラマティック・リーディングである。

梗概

時代は進み、種も異常な早さで変化している。今や社会の協定は実質のないものと化し、生物体を取り巻く自然環境も不安定な状態となっている。そのような未来世界で、科学と宗教を組み合わせた教義を崇めつつ動植物の生命保護に献身する宗教団体「神のガーデナー（庭師）たち」の教祖Adam Oneは、地球を破壊するような大天災が起きる、と長い間予言してきた。ついにその天災が生じ、ほとんどの人間たちが跡形もなく消え去ってしまった。生き残ったのは二人の女性、高級セックスクラブの部屋にいた若きダンサーのRenと贅沢なスパに身を隠していた「神のガーデナー（庭師）たち」の信徒Tobyである。他に生き残ったものは・・・。

本作品のなかで、アトウッドは面白可笑しく彼らの宗教を利用している。皮肉たっぷりに誇張され賛美歌は、歌詞はエコロジカルで曲は教會的。レンもトビーも非宗教的理由から入信したことがわかってくる。しかし、信者ガーデナーたちの優しさと仁愛の精神はユーモラスでもあり、希望でもある。彼らの教義は馬鹿ばかしいけれど、企業が優先する露骨な物質偏重よりまし、とアトウッドは提示しているようである。

(佐藤アヤ子記)

文学フォーラム 招待作家

- 記念講演 リュドミラ・ウリツカヤ(9月23日)
- 朗読劇とスピーチ
 - サラ・パレツキー(9月23日)
 - チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ(9月24日)
 - サラワ・アル・ネイミ(9月25日)
 - マリーナ・レヴィツカ(9月25日)

リュドミラ・ウリツカヤ

Ludmila Ulitskaya

9月23日 文学フォーラム記念講演

- 1943年家族が疎開していたバシキーリヤ（当時ソ連の自治共和国）に生まれる。
- 戦後モスクワに戻り、モスクワ大学で遺伝学を修める。卒業後、遺伝学研究所に勤めたが、1970年サミズダート（地下出版）に関わったとして解雇され、子供劇場や人形劇場でシナリオを書くようになる。小説を発表するようになったのは1980年代末から。
- 1992年文芸誌『新世界』に発表した『ソーネチカ』（単行本は1995年刊）で脚光を浴び、1996年フランスのメディシス賞とイタリアのジュゼッペ・アツェルビ賞を受賞。以後、作家として着実に地歩を固めていき、2001年『クコツキー家の人びと』でロシア・ブッカー賞、2004年には『敬具 シューリク拝』でロシア最優秀小説賞、2007年には『通訳ダニエル・シュタイン』でボリシャヤ・クニーガ賞を受賞した。非常に人気のある実力作家である。
-
- 邦訳
- 『ソーネチカ』 沼野恭子訳（新潮社、2002）
- 『それぞれの少女時代』 沼野恭子訳（群像社2006）
- 『通訳ダニエル・シュタイン』 前田和泉訳（新潮社、2009）



サラ・パレツキー

Sala Paletzky

文学フォーラム 9月23日

サラ・パレツキーは1947年アイオワ州エームズに生まれ、カンザス州コー・ヴァレーで育った。カンザス大学を卒業後、シカゴ大学で政治学の博士号を取得し、以来シカゴに住む。1982年に『サマータイム・ブルース』で作家デビュー。ハードボイルド小説の主人公に、自立した女性私立探偵V・I・ウォーショースキーを起用して、注目を集め、高く評価された。1988年に『ダウントOWN・シスター』で英国推理作家協会（CWA）のシルヴァー・ダガー賞を獲得。2002年には同賞のダイヤモンド・ダガー賞（巨匠賞）を受賞し、さらに2003年の『ブラック・リスト』で同ゴールド・ダガー賞も受賞した。V・I・ウォーショースキー・シリーズは、1991年に第2作『レイクサイド・ストーリー』を基にしたオリジナル脚本で「私がウォシャウスキー」（キャスリーン・ターナー主演）として映画化されている。また、著作活動以外にも女性作家地位向上のための団体〈シスターズ・イン・クライム〉の創設に関わり、初代会長を務めた。

日本では〈ヴィク・ファン・クラブ〉が結成されるほどの人気で、キャスターの小宮悦子氏やエッセイストの温水ゆかり氏などがファンとして知られている。1994年には早川書房の招きで来日した。

サラ・パレツキー著作リスト

〈V・I・ウォーショースキー・シリーズ〉

- 1 『サマータイム・ブルース』 Indemnity Only(1982)
- 2 『レイクサイド・ストーリー』 Deadlock(1984)
- 3 『センチメンタル・シカゴ』 Killing Orders(1985)
- 4 『レディ・ハートブレイク』 Bitter Medicine(1987)
- 5 『ダウントOWN・シスター』 Blood Shot (1988)
- 6 『バーニング・シーズン』 Burn Marks (1990)
- 7 『ガーディアン・エンジェル』 Guardian Angel (1992)
- 8 『バースデー・ブルー』 Tunnel Vision (1994)
- 9 『ハード・タイム』 Hard Time (1999)
- 10 『ビター・メモリー』 Total Recall (2001)
- 11 『ブラック・リスト』 Blacklist(2003)
- 12 『ウィンディ・ストリート』 Fire Sale(2005)
- 13 Hardball(2009) 早川書房より2010年9月刊行
- 14 Body Work(2010)

〈単発作品〉

『ゴースト・カントリー』 Ghost Country(1998) 『ブラッディ・カンザス』 Bleeding Kansas(2008)

〈短篇集〉

『ヴィク・ストーリーズ』 Sara Paretsky's Short Story Collection(1994)

ウォーショースキーものを集めた日本独自編纂の短篇集。

〈エッセイ〉

『沈黙の時代の作家』 Writing in An Age of Silence(2007)早川書房より2010年9月刊行

*パレツキー作品の邦訳はすべて早川書房刊、山本やよい訳



写真(禁転載)

(C) Tom Maday, Chicago

(C) Hayakawa Publishing, Inc.

『沈黙の時代の作家』

Writing in An Age of Silence

2007年に発表されたサラ・パレッツキーのエッセイ。現代社会の諸問題と対峙しつづける作家が、自身の半生や信条を明かす。第一章「手に負えない女たち」では、厳格な両親と4人の兄弟とともに育った幼少時代、第二章「キングとわたし」では、彼女の作家活動に大きな影響を及ぼした、1966年のマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動、第三章「天使ではない、怪物でもない、ただの人間」では、フェミニズム運動とV・I・ウォーショースキー誕生秘話、第四章「iPodとサム・スピード」では、社会を犠牲にして個人を美化するアメリカ社会について痛烈な批判を加えている。また、今秋早川書房より刊行の翻訳版では、日本向けに新たに書き下ろした、オバマ政権誕生後のアメリカに関する一章が追加される。

チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ

文学フォーラム 9月24日

Chimamanda Ngozi Adichie

- 1977年、ナイジェリア南部のエヌグで生まれ、大学町スッカで育つ。イボ民族の出身。ナイジェリア大学で短期間、医学と薬学を学び、19歳で奨学金をえて渡米。ドレクセル大学、東コネティカット大学でコミュニケーション学と政治学を学ぶ傍ら、次々と作品を発表する。ストーリーテラーとしての天賦の才に恵まれ、抜群の知性としなやかな感性で紡ぎだされる物語は、繊細で心にしみると好評を博す。2003年にO・ヘンリー賞、PEN/デイヴィッド・T・K・ウォン短編賞を受賞。その後も数々の賞にノミネートされ、05年コモンウェルス賞を受賞した初長編『パープル・ハイビスカス』につづき、ビアフラ戦争をテーマとした長編『半分のぼった黄色い太陽』では07年オレンジ賞を最年少で受賞。「ランドマークとなる小説」と絶賛の嵐をまきおこす。08年はマッカーサー基金フェローシップを授与され、イエール大学でアフリカ学を修め、現在はナイジェリアと米国を往復しながら次作の構想を練っている。



(c) Okey Adichie

「なにかが首のまわりに」

The Thing Around Your Neck

(既訳邦題「アメリカにいる、きみ」)

ナイジェリアの少女「きみ」は運良く米国のヴィザを手に入れて、メイン州に住むおじさんを訪ねる。カレッジへも通わせてもらったが、学友から「アメリカに来るまで車を見たことはある？ 編んだ髪をほどくとまっすぐ立つの？」などと質問せめにされ、多くの無知と偏見に直面する。しかもおじさんのセクハラにあってその家を飛び出し、別の州のレストランでウェイトレスとして働くことになる。やがてお客の学生と恋が芽生えるが、彼が菜食主義で肉は食べないと言うとき、きみは故郷では小指の先ほどしか食べられない貴重な肉片を思う。彼が人工調味料には発ガン性があると言うとき、母親が香辛料は高すぎると、グルタミン酸ソーダ入りキューブを使っていたことを思う。でも彼のおかげで、故郷を離れて以来、夜になるときみの首に巻きついて眠りを妨げていたなにかが、だんだん消えていきそうな気がしてきて——アメリカに渡ったナイジェリアの少女のふかい悲しみを、切なく、細やかなタッチで描いた短篇。

付記: 本作品は、日本オリジナル編集の短篇集『アメリカにいる、きみ』(河出書房新社、2007年)所収の表題作だが、2009年に著者による自選短篇集が刊行されたとき、作品タイトルが雑誌発表時の「You in America」から「The Thing Around Your Neck」と改められた。内容も多少手直しされているため、今回は自選短篇集に収録された最新バージョンを改訳する。

サルワ・アル・ネイミ

Salwa Al Neimi

文学フォーラム 9月25日

1950年代末、シリアの首都ダマスカス生まれ。若くしてパリに移住。

ソルボンヌ大学でアラブ文学と演劇を学ぶ。大学卒業後、パリにあるアラブ世界文化研究所に勤務するかたわら詩人、ジャーナリストとして活動。

2003年詩集『わたしの先祖、殺人者たち』（フランス語題題：Mes anc?tres, les assassins, Paris-M?diterran?e出版）を、自身のフランス語訳で上梓。

2007年、初めての小説『蜜の証拠』（フランス語題：La Preuve par le miel）をベイルートの出版社から刊行。この“アラブ女性によるエロティック小説”は、アラビア語圏で衝撃をもって迎えられ大きな成功を得る一方、大多数のアラビア諸国で発禁本に指定される。しかしながら本書は、密かに受け渡しされ、あるいはインターネットでダウンロードされて読まれ続けているという。

アラビア語以外では世界18カ国語に翻訳出版され、フランスとイタリアではベストセラーとなっている。



蜜の証拠

La Preuve par le miel

アラビア女性による性愛をテーマにした小説。大学図書館で働いていた語り手の女性は、ある日アラビア語の古典性愛文学の長大なリストを目にする。興味津々で読破してゆくうちに、研究対象として発表する機会が与えられそうになると同時に、彼女自身の性生活もドラマティックに変化し始める。「一の扉」から「十一の扉」で構成される本書のそれぞれの扉の向こうに広がるのは、性愛をめぐる実にさまざまな物語と思想である。古典から引用される預言者の知見や性の達人たちのエピソード、語り手自身の幼い日の思い出、現代チュニスの「蒸し風呂(ルビ:ハマム)のマッサージ師や女友達の打ち明け話……。物語の舞台はパリの大学都市、図書館、地下鉄やカフェ、そしてもちろん、パートナーとのベッドの中にまで及ぶ。語り手の女性が無条件で礼賛する性愛や肉体の豊穡な快樂が、そのまま知の快樂、言葉の快樂に見事に通じてゆく、世界文学の最高傑作である。

マリーナ・レヴィツカ

Marina Lewycka

文学フォーラム 9月25日

ウクライナ移民2世。自身の生い立ちをベースにした作風が独特の文学性、ヒューマニズム、ユーモアを持ち、ヨーロッパで高い評価を得ている。1946年、ドイツ・キールの難民キャンプで生まれる。両親はウクライナ出身。彼女が1歳のとき、一家でイギリスに移住。受け入れ施設に滞在後、サセックス州で高齢の夫人の世話をする仕事を見つけ、一家で住み込みながら、母親が夫人の世話を、マリーナはあひろの世話をして日々を送る。この時期に、老婦人から英語を教えられる。1949年、一家はドンカスターに近い小さな炭鉱の町に自宅を構えて、父はトラクター会社に勤務する。マリーナは4歳から詩を、小学校の低学年でストーリーを書き始める。1954年、一家はドンカスターへ移る。現地の学校では移民であることが原因でいじめにあうが気にせず、ベッドで冒険小説を読むことが日の楽しみだった。高校時代に洗練された文学を読み始める。その後、キール大学で英語と哲学を学び、多くの文学作品に触れる。好きな作家は、形而上派の詩人、チョーサーの他シェークスピア、イエーツ、ジェイムズ・ジョイス。その後ヨーク大学で修士号を取得。現在、シェフィールド・ハラム大学で教鞭をとっている。高齢介護関連の著作が6冊ある。2005年、58才で小説家としてデビュー。自伝的要素の多い処女作『おっばいとトラクター』は、英語圏で100万部超のベストセラーとなり、35カ国語に翻訳されている。同作はブッカー賞の候補となり、イギリスのコメディ賞 Bollinger Everyman Wodehouse Prizeを女性では初めて受賞。『エリザベス』のプロデューサー、アリソン・オーウェンにより映画化の企画もスタートしている。2007年にはイチゴ農場で働く移民たちを主人公にした2作目 **Two Canvans** を発表（米国とカナダでは **Strawberry fields** というタイトルで刊行）。また2009年7月に発表した風変わりな老女と中年女性が主人公の **We Are All Made of Glue** は、レヴィツカ特有のユーモアたっぷりのストーリーながら、民族の対立や老いなど、重いテーマを扱っている。作家としては不遇の時代が長かったマリーナは、成功した今でも客観的な視点を失わずにいる。また、遅い作家デビューながら、精力的な執筆活動を続けている。



Ian Phillpott

おっばいとトラクター

A Short History of Tractors in Ukrainian

イギリスに暮らすウクライナ移民のニコライは84歳。2年前に妻を亡くして以来ひとりであらしていたが、ある日、ウクライナから来たヴァレンチナ(36歳)と再婚すると言い出したから、娘のナジェージュダ(47歳)とヴェーラ(57歳)はびっくり仰天。母親の遺産をめぐる対立していた姉妹だが、慌てて一時休戦。財産目当てに違くない若い女性から父親を守るべくタッグを組み、ヴァレンティナの追い出し作戦をスタートする。豊満なおっばいに露出度大のセクシーな服でニコライに迫るヴァレンチナVSそれぞれ違う時代に育ち・違う人生観を抱えながらもイギリスで生活を築いてきた姉妹。全く価値観の違う3人の闘いは日に日にエスカレートする。姉妹の心配をよそに老父ニコライは、ヴァレンチナにメロメロで、なんだかんだとお金を搾り取られ始めるが…。イギリスで女性として初めてコメディ賞を受賞、ブッカー賞候補にもなった、哀歓いっぱい傑作小説。